

一般質問！ 神場圭司 議員

Q 安心・安全なスクールバスでの通学について

スクールバスに乗降や登下校が

確認できるアプリの導入を

(教育長) 総合的な安全対策を早急に検討



神場圭司 議員

安心・安全なスクールバス での通学

質問 スクールバスの適正な運行について、町はどのように確認しているか。

答弁 全てのスクールバスから運行前と運行後に実施する日常の点検結果を記載した運転管理日報を提出させており、日報による報告をもとに、バス車体の異常や運行

時の状況を確認している。

質問 スクールバスの運行に関し、どのように危険個所を把握し、どのような対応を取るのか。

答弁 運行の妨げとなる支障木は、日々の運行している乗務員より業務責任者を介して連絡を受けることで対応している。バス会社、学校、町による連絡体制が整っている。

質問 スクールバスの運行中における児童生徒の体調不良や交通事故などの非常時に町ではどのような対応を取るか。

答弁 児童生徒の体調不良や交通事故の発生などに備え、非常時の対応マニュアルである「那珂川町スクールバス安全運行指針」を策定して対応にあたっている。

質問 スクールバスの運行に関し、業務用自動車の緑ナンバーの運行でなく、町がバスを所有し、白ナンバーで運行している理由は。

答弁 バスは高額であるため、国庫補助などの財源を受け、購入している。緑ナンバーで運行した場合、国庫補助等の財源がないことで、運行経費がより割高になるため。

質問 交通安全啓発の観点から、スクールバスの乗降場所を示す看板を設置すべきと考えるが、町の考えは。

答弁 児童生徒の状況により運行が広範囲になり、道幅が狭い所も運行していることや、乗降所全てが道路沿いの公共的な場ではなく、個人の借地を利用している場所もあることから、一律に看板の設置は難しい。乗降場所を示す看板を設置する考えはない。

質問 保護者の安心材料となるよう、バスの乗降や登下校を確認できるアプリなどを導入すべきでは。

答弁 近隣の那須烏山市では、児童生徒が登下校の際、あらかじめ渡されたカードを専用の機械にかざすことで、保護者に対しメール配信するシステムを導入している。通学時における保護者への不安解消や児童生徒の安心安全の観点から、将来的には導入に向けた検討が必要。送迎バスの置き去り事故を未然に防ぐ対策なども含めて、総合的な安全対策を早急に検討していく。



一般質問！ 高野 泉 議員

Q 移住・定住の促進について

地域ぐるみで移住定住の支援体制の強化を

(町長) 移住者と地域住民が

良好な関係を築けるよう支援



高野 泉 議員

宅の「エミナル那珂川」などの事業を行ってきたほか、首都圏の親子をターゲットにした「なかがわぐらしプロモーション事業」を実施してきた。

こうした事業により一定の成果を上げているものの、人口減少の歯止めには至っていないため、引き続き、移住・定住希望者のニーズの把握に努めながら、「なかが

わぐらし」推進係を中心に関係各課や関係団体と連携して移住・定住者の増加を図る。

質問 移住・定住の促進に向けた専門のコンシェルジュ配置と移住・定住に特化した拠点を作る考えは。

答弁 移住・定住希望者が立ち寄りやすく、相談しやすい場所へ拠点を設置することも有効な手段と考える。先進的な事例等を調査研究しながら設置について検討する。

質問 教育移住に対する町の支援は。

答弁 当町では、子供たちの将来を見据えた教育活動を第一優先に、小規模校の優位性を生かした児童生徒にとって実り多い学校生活を送れるよう、充実した教育活動及び地域と連携した学校経営に努めている。移住先に那珂川町が選ばれるよう、学校の魅力を広く情報発信していきたい。

質問 移住者と地域住民との信頼

関係構築に向けた町の取組は。

答弁 移住相談者には、スムーズに那珂川町での生活が送れるよう気候や習慣などの情報提供を丁寧にするように心がけている。地域に対しても適切な情報提供に努め、移住者と地域住民が良好な関係で生活を送れるよう支援していく。

質問 移住・定住の促進に向けた情報発信の状況と今後の取組は。

答弁 町のホームページに移住・定住に関する情報をまとめたページを設けている。今後は、ホームページやSNSを中心に、生活に関わる情報の充実を図る。

移住・定住の促進

質問 移住・定住の促進に向けた町の取組状況と課題は。

答弁 これまでに町有地を住宅用地として整備し、家を建てる方に対して20年間貸し出す「農ある田舎暮らし高手の里」、短期間の生活体験ができる「いきいき田舎暮らし体験住宅」、町内の空き家や空き地を紹介する「地域資源情報バンク」、子育て世帯向け集合住



高手の里



エミナルなかがわ

一般質問！ 川俣義雅 議員

Q 町が行なっている集団検診について
Q ごみを限りなく減らす方針について

燃やしているごみを資源回収へ

(町長) ごみゼロは私の大きな願望



川俣義雅 議員

に基づいて実施されるが、視力検査と聴力検査が検査項目にある。

質問 小中学校の健診に視力・聴力検査はあるか。

答弁 学校保健安全法で実施され全学年での視力検査と特定学年での聴力検査が行われている。

質問 町民にとって視力を正確に知ることは必要では。

答弁 法律の枠組みに基づいての検査を実施している。

質問 基本健診の検査項目に視力・聴力検査がないのは。

答弁 集団検診は健康増進法に基づき健康増進事業として実施しているもので、国の定める指針の検査項目に、視力・聴力検査の項目が含まれていないため。

質問 町職員の検診に視力・聴力検査はあるか。

答弁 町職員は、労働安全衛生法

質問 給食費の半額補助、18歳までの医療費無償など町の判断で実施している取組もある。視力検査と聴力検査も実施してもらいたい。

答弁 国の制度が変わるのか、他市町の導入状況をみながら検討したい。

ごみを限りなく減らす方針を

質問 町は、ゼロ・ウェイスト目指すとしている。紙類、プラスチック類の分別回収、資源化をどう進めるか。

答弁 細かい雑紙は紙袋に入れて出すようお願いしている。プラスチック類の分別回収や資源化も引き続き検討していく。

質問 燃やすごみの約40%が紙類。昨年9月の広報紙で雑紙は紙袋にと書かれたが、資源として出される雑紙は増えているか。

答弁 確認して今後に生かす。

質問 雑紙は再生され段ボールになることが知られていないのでは。

答弁 回収後の経路を示すことが大切。

質問 燃やすごみの中で2番目に多いのが24%でプラスチック類。プラスチック類の資源回収がごみゼロへの転換点では。

答弁 できる限り燃やすごみを削減していく。

質問 生ごみの回収・堆肥化の地域を広げる計画は。

答弁 コストや人材確保に課題がある。

質問 生ごみ処理機の活用をお願いするならば、補助を増やすべきでは。

答弁 補助の見直しを考えている。

質問 紙類、プラスチック類、生ゴミなどを合わせると燃やすごみの90%を超える。これらを資源にすれば、100億円とも言われている焼却場建設が必要なくなるのでは。

答弁 いろいろと課題はあると思うが、ゼロ・ウェイストを目指す。

質問 ごみゼロ実現に向け、町民にどのように理解を得ていくのか。

答弁 様々な取り組みを広報などでお願ひしていく。

一般質問！ 益子明美 議員

Q 重層的支援体制整備事業について
Q 馬頭高校への支援について

第3期県立高等学校再編計画の決定前に

県教委に馬頭高校存続の要望を

(町長) 議会、学校の意思を確認して

存続の要望をしていきたい



益子明美 議員

重層的支援整備事業の発展

質問 重層的支援整備事業の取組状況と課題は。

答弁 現在、ひきこもり支援として地域力強化推進員を配置した『のんびりカフェ』や『ひきこもりキャンパス』を実施。令和5年度においては、自立に向けた職場体験や有償ボランティア活動を予定。課題としては、事業の有効性やニーズに即した支援のため、最適な支援体制を構築する必要がある。

答弁 農業担当部署とも連携しながら対応していく。

質問 地域の健康づくりを支える新たな取り組みとして、「コミュニティナース」という存在がある。地域に向き住民の日常生活の中に入り込み、医療機関や行政と連携しつつ住民の健康と幸福に寄与する活動の実践を行うこのコミュニティナースの育成や支援を行うべきと考えるが町の考えは。

答弁 町内においても、コミュニティナースが高齢者の話し相手や服薬のサポート、病院の診察の付き添い、生活支援サービスを行うなど、町にとっても意義ある活動だと認識している。支援や育成については、県や他市町の動向や活動されている方の意見も聞きながら検討していく。

馬頭高校への支援

質問 高校魅力化プロジェクトによるコーディネーターの配置で、コーディネーターを務める地域おこし協力隊の取組内容は。

答弁 馬頭高校の地域学習である那珂川学のサポートのほか、生徒のニーズを把握して高校や地域に愛着を持ってもらうための事業や馬頭高校に関する情報発信などを行う。

質問 町から県教委に対して馬頭高校の存続をどのように訴えてきたか。

答弁 昨年8月の市町村長会議で知事に馬頭高校の存続を要望した。今後も様々な機会ですべて県教委に存続を要望していく。

質問 第3期県立高等学校再編計画が決定する前に、議会と共に馬頭高校の存続を県教委に要望していくべきでは。

答弁 議会の皆さんが同じ考えを持つならば、学校の意思確認をした上で馬頭高校の存続を要望して

質問 現在3地区で行われている福祉相談事業は継続されるか。

答弁 引き続き、重層的支援体制整備本事業の中で相談業務と福祉相談支援センター事業の強化を図っていく。

質問 地域づくり事業として、農村における課題と福祉における課題の双方にメリットがある農福連携に取り組むべきと考えるが町の考えは。



3年ぶりとなる

町民と議会との意見交換会を開催しました

1月22日・29日 2会場で

【開催状況】

開催日	会場	参加人数
1月22日 (日)	小川総合福祉センター	10名
1月29日 (日)	馬頭総合福祉センター	11名



1月22日と29日、3年ぶりとなる対面での『町民と議会との意見交換会』を開催しました。

議会活動の状況や、各常任委員会で の 所 管 事 務 調 査 の 結 果、 団 体 と の 意 見 交 換 会 の 内 容 に つ い て 報 告 を 行 っ た 後、 質 疑 応 答 を 行 い ま し た。

その後、テーマを設けずに意見交換を行いました。

2会場で25件の質問や意見要望をいただきました。

会場での質疑や、意見要望の内容、補足したい点、会場でお答えできなかった点などについて、議会内での結果をお知らせいたします。

紙面の都合上、全てを掲載できないことをご了承願います。

フリートークによる意見交換

議会活動について

要望 人口減少を皆で考えてみよう。年に1回でもいいから講演、討論の場を作って欲しい。

回答 議会全体として、人口減少について意見交換してはいますが、町民と議会の意見交換会の中で、人口減少に関する意見交換の場を検討していきたい。

要望 議会の傍聴に関して、聞きとれない。傍聴席にもスピーカーの設置を要望したい。

回答 聞き取りにくきの解消に向けて、議会として真摯に対応していきます。

質問 定例本議会において、他市町では一般質問より議案審議を先に行っているが、なぜ那珂川町議会は議案審議より先に一般質問が行われるのか？意味があるのか、その意図を知りたい。

回答 那珂川町議会の運営に関する基準に基づき行われています。

道路整備について

要望 国道294号バイパスの延長工事について、地元からの要望はもとより町議会としても要望をお願いしたい。

回答 国道294号バイパスの延長工事は、困難な状況ではあるが、議会としても継続して町へ要望していく。





1月22日 小川総合福祉センターにて

地域交通について

意見 那珂川町公共交通機関であるデマンドタクシーの乗降設置が那須南病院にないのはおかしいのではないかと、何のために那珂川町は那須南病院のための分担金を出資しているのか？

回答 議会として、デマンドタクシーが、那須南病院へ乗り入れができるように引き続き町に要望をしていく。

子育て支援について

要望 給食費、学童保育の費用を安くしてもらいたい。

回答 給食費に関しまして、町は令和5年度より3年間、半額に減額されています。

放課後児童クラブ利用者負担金は、一般質問もしており、費用負担軽減について引き続き町へ要望いたします。



その他の事項で

○防災関係

質問 自然災害が増える中、災害時に区や班で取り組めることは、どんなことがあるのか。

回答 地区防災計画の策定に取り組みされている行政区があります。一つでも多くの行政区で、取り組みができる様に議会としても町へ要望していきます。

○県営処分場について

要望 県営処分場の半径100mのところモニタリングポストをおいて欲しい。搬入前から測って欲しい。

回答 県営処分場稼働前に、議会で現地調査を行いモニタリングポストの要望を致してまいります。



会場アンケートから

○その他のご要望等への回答

要望 和見地区でカラスが増え鳴き声に困っています。自宅の裏山は飛来数が増えました。西側では、産廃施設が建設中で生態系が変わった影響が和見にきたのだと思っています。町へは実態調査と駆除を要望したい。

回答 町では、有害鳥獣駆除を猟友会に委託して、毎年5月中に和見地区を含め町全域で行われています。

質問 10月に始まるインボイス制度と、今後のシルバー人材の確保に議会の考えを教えてください。

回答 議会だよりNo.70に掲載されているとおり、教育民生常任委員会とシルバー人材センターが意見交換し、町に意見要望書を提出しています。

要望 企業誘致に関して推進してもらいたい。

回答 議会としても、企業誘致・定住施策について、引き続き町へ提言をしていきます。

意見 広重美術館の修繕費用を確保するため、マスコミ等を利用するべきではないか。

回答 町では、令和5年度予算に修繕調査費用が計上されており、修繕費用の財源に関しては、ふるさと納税等を検討されている。

○意見交換会に対するご感想

・意見交換会は、継続してほしいです。良い方向性であります。

・多くの町民が意見を言えるようにケーブルテレビ放映を無くし議事録とします。

・書面アンケートも良かった。意見、要望も書面です出したら。

・今日の意見は、具体性もあり参考になるものがありました。これを再度検討して良い方向に進めていただきたい。

・次回も対面や文章でも意見や要望、回答が出来たら良いです。

○会場アンケートの結果
参加者21名中14名(66%)から回答をいただきました。

問1 あなたの性別と年齢を教えてください。

	女	男
70代以上	1名 (7%)	8名 (57%)
60代	1名 (7%)	3名 (21%)
50代	1名 (7%)	3名 (21%)
40代	1名 (7%)	3名 (21%)
30代	1名 (7%)	3名 (21%)

回答者の8割が50代以上の方でした。

問2 議会報告会の開催を何で知りましたか？(複数回答)

議会だより	7名
開催チラシ	6名
ケーブルテレビ	5名
ホームページ	1名
議員	1名
ロコミ	1名
その他(音声告知)	2名

問3 開催の曜日や時間帯はいつが良いと思いますか？(複数回答)

土日の午後	5名
いつでもよい	4名
平日の夜	2名
土日の夜	2名
土日の午前中	2名

問4 町民と議会との意見交換会に参加した感想をお聞かせ下さい。

良かった	11名 (79%)
思っていた内容と違った	1名 (7%)
わからない	2名 (14%)

問5 今後も議会報告会に参加したいですか？

参加したい	9名 (64%)
参加したくない	1名 (7%)
わからない	4名 (29%)



1月29日 馬頭総合福祉センターにて

《常任委員会の経過》

総務産業常任委員会

開催日 2月15日

地域公共交通計画（案）について総務課から、空家等対策計画（案）及び、分譲宅地整備計画（案）並びに、ふるさと納税の返礼品について企画財政課から、それぞれ説明を受けました。

空家等対策計画は、空家等対策を総合的・計画的に実施し、町民等の生命・身体・財産に対する被害を防止することにより安心・安全な生活環境を確保するとともに、空家等の利活用による地域の活性化を目的に策定するものです。

開催日 3月28日

1月に開催した、町民と議会との意見交換会の内容についてまとめを行いました。

《教育民生常任委員会》

開催日 2月15日

入学・進学支援金交付事業、学校給食費の減額について、学校教育課から説明を受けました。

入学・進学支援金交付事業は、令和5年度に入学・進学する児童生徒の保護者に対し、物価高騰対策の一環として、入学用品準備費用の負担軽減のため、支援金を支給するものです。

開催日 3月28日

1月に開催した、町民と議会との意見交換会の内容についてまとめを行いました。

開催日 4月25日

馬頭運動場の屋外トイレ解体新築工事について、生涯学習課から説明を受けました。

馬頭運動場の東側のトイレは、建物の老朽化や衛生面で利用者に不便をきたしていることから、利便性の向上のため解体して、新築の工事を実施するものです。

《特別委員会の経過》

議会改革特別委員会

開催日 2月21日

第1小委員会・第2小委員会ともに、調査項目とスケジュールについて協議しました。

- ◆第1小委員会の検討項目
- ・議会基本条例の検証について
- ・議会機能継続計画（議会BCP）の策定

- ・議会会期の在り方について
- ・ICTを活用した議会を目指
- ◆第2小委員会の検討項目

- ・定数の見直しについて・報酬の見直しについて・政務活動費の導入について

開催日 3月28日

調査項目とスケジュールについて、第1小委員会・第2小委員会からの報告をもとに全体のスケジュールと委員会の運営について協議しました。

議会広報モニターからの
ご意見ご感想を紹介します

専門用語などについて、注釈を加えてもよいのでは。

委員会より…

専門用語や難しい用語がある場合には、注釈をつけるよう心がけています。「なかちゃん」が解説をしたり、その他にも「なかちゃん」が聞き役となった一問一答形式もあります。

今回（No.70）の議会だよりは、なんといっても表紙のインパクトに尽きると思います。表紙のテーマの「ふれあい」を見事に表現されていると思います。前号の表紙も素晴らしかったですが、今号も議会の堅さを忘れさせてくれる素晴らしいもので、次号も楽しみです。

毎号発行の「広報なかがわ」は「かましん」「リ
オンドール」に置いてありますが、「議会だより」
も予算・発行部数の制限で難しいと思われま
すが、同様店舗に少量で結構ですので配
備した方が若い世代の家族等に対し町議
会の仕事について少しでも興味を持って
頂ければ町議会の活性化が図れると思
われます。

委員会より…

店舗を確認して、可能であれば配布するようにします。

今回、キラリ、若者にフォーカスされたことが凄くいいなと思
いました。熟練、ベテラン、プロ、功績としてのすばらしい輝きは確
かにあるでしょうが、将来と未来を感じるキラリ記事を私は望
みます。ひたむきに目標に向かう若者の記事が好きです
ね。

季節のイラスト等が入っていて良
い。全体的に読みやすくなっ
ていると感じる。



議会だよりという性格上、ある程度は仕方がないのかもしれないが、使われている言葉に漢語が多く、固い印象を与える。一般町民が読み手であることを考えると、もっとやわらかい表現の方がよいのではないか？ひら仮名が多い方が見た目にも、とっつきやすい。

馬頭高校3年生に対して、将来行政の行方に関心を持ってもらうために「定例議会一般質問の傍聴」を学校と町との協働のうえ実施計画してもよろしいかと思
います。

議会のうごき&内容

令和5年

2月

2日 議会広報特別委員会
10日 議会だより第70号発行
15日 総務産業常任委員会
16日 教育民生常任委員会
21日 全員協議会
21日 議会改革特別委員会
22日 議会運営委員会
24日 南那須地区広域行政事務組合協議会定例会
(3月定例会)

3月

2・3日 令和5年第1回議会定例会(一般質問)
2日 議会運営委員会
6日 令和5年第1回議会定例会(議案審議)
6日 予算審査特別委員会
7日 予算審査特別委員会(1日目・一般会計)
8日 予算審査特別委員会(2日目・一般会計)
9日 予算審査特別委員会(3日目・一般会計)
10日 予算審査特別委員会(4日目・一般会計)
13日 予算審査特別委員会(5日目・特別会計)
15日 令和5年第1回議会定例会(議案審議)
27日 議会広報特別委員会
28日 議会改革特別委員会
28日 総務産業常任委員会
28日 教育民生常任委員会

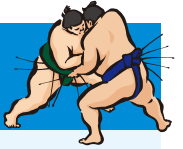
(第13回、第71号発行)

4月

11日 議会運営委員会
18日 全員協議会
18日 議会広報特別委員会
25日 議会広報特別委員会
25日 教育民生常任委員会
(第14回、第71号発行)
(第15回、第71号発行)

5月

10日 議会だより第71号発行



中学生力士

(大田原市若草中学校1年)

木村 梢汰さん (小口)



なかちゃんが見きました。

Q 本格的に相撲を始めたいきっかけは?

A 小学校5年生の時に、初めて出場した県の大会で優勝をしたんだけど、全国大会で負けたことがとても悔しくて、それがきっかけで本格的に相撲を始めるようになった。

Q これまでの成績は? A ジュニアオリンピック栃木県代表、わんぱく



まわし姿の木村さん (身長172.6cm、体重100kg)

相撲全国大会では、小学校5年生と6年生の時

Q 稽古はどのくらいしているの?

A 小学生の時は、週に2日程度だったけど、中学生になってからは、部活動で週5日稽古しているよ。

Q どんな稽古をしているの?

A 曜日によってだけど、ぶつかり稽古とか、取組みの稽古をやっているよ。それ以外には、体を鍛えるために、ウエイト機具を使った筋トレもしているよ。

Q 普段の生活で大変なことや気を付けていることは?

A 小口の家から大田原市の中学校に通うのが大



稽古に励む木村さん(右側)

変かな。それと体が大きいせいかな、小学生の時には、高校生に間違われたこともあるよ。(笑)

Q 相撲の魅力を教えてください?

A 格上の相手と対戦できる喜びと、勝ったときの爽快感かな。

Q これからの目標や将来の夢は?

A 新人戦で優勝することと、全国大会に出場して、個人戦と団体戦で優勝することかな。将来は、みんなから尊敬される強い横綱になりたいな。



町出身の力士が誕生したらすごい事だね。みんなで応援しよう!

議会を傍聴しませんか

皆さんの身近な問題などが審議されます。

傍聴の際には、マスク着用・手指消毒など、感染防止対策にご協力願います。

次の定例会は、6月6日開会 (令和5年第2回議会定例会)の予定です。議場は、庁舎2階です。

ケーブルテレビ(11ch)で議会が生中継されます。

第1回3月定例会の

議会傍聴者数

15日	6日	3日	2日
1人	1人	7人	3人

●表紙写真

桜の下で(馬頭公園)

例年より早く桜が満開になった3月下旬。馬頭公園に足を運ぶと、桜の下で女の子がお母さんとブランコに乗って遊んでいました。桜に負けない満開の笑顔がとても印象的な一枚です。

編集後記

今年の春はあまりにも急ぎ足で桜の花も入学式を待つてはくれませんでした。新型コロナウイルスも5月8日に感染症法上の位置づけが5類へと移行され、今後適切な情報提供等により安心できる体制の構築を望みます。

先日、作家の村崎なぎこさんが馬頭高校水産科をモデルにした『ナカスイ!海なし県の水産高校』という本を執筆し出版されました。

馬頭高校のことを丁寧に取材され、特色ある水産科に興味と愛情をもって頂いたことがよく分かります。

高校生が『ご当地おいしい甲子園』へ挑戦するストーリーの中で那珂川町ではおなじみのザリガニ、沢蟹、シジミ、そしてなまずを使った料理が紹介されています。個人的で唯一無二の馬頭高校水産科がモデルのこの小説が全国で読まれると思うとワクワクします。町の図書館にも置いてありますので、ぜひ手に取り読んでみてください。

委員 益子 明美

過去の議会だよりはこちらのQRコードで見られます。

那珂川町ホームページ http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp/

